

自由学園明日館・

自由学園南沢キャンパス・遠藤 新

宮井建築設計室 代表 宮井 昭 隆

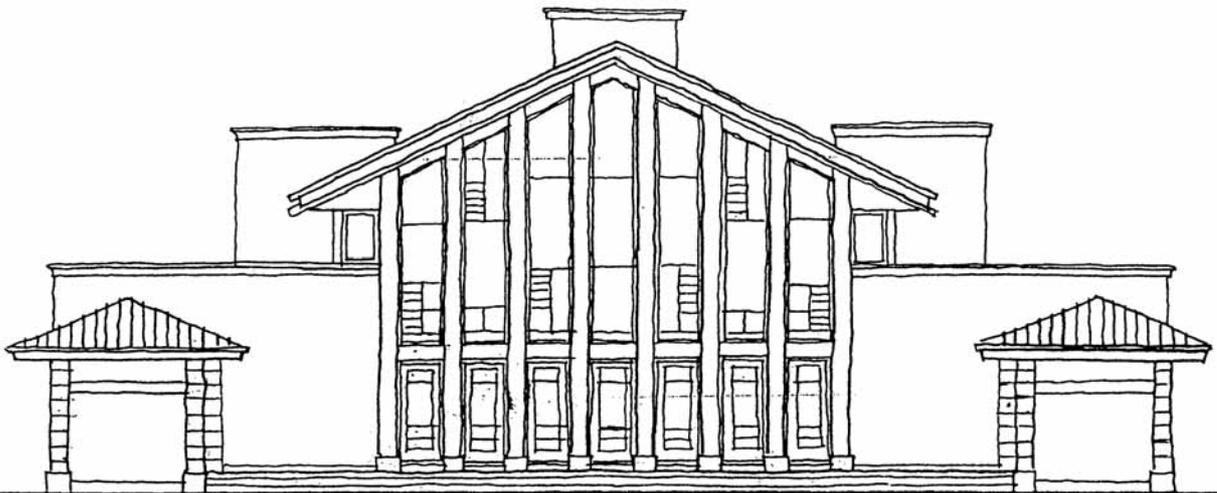
重要文化財自由学園明白館の保存と修理

「婦人友」誌を発行していた羽仁吉一・羽仁もと子は大正10年の2月号に自由学園の創立を発表しました。当初は5年制の女学校本科と2年制の高等科で第1回目の入学者は26名と59名でした。年々生徒数が増加し大正13年頃よりより広い校地を求め、移転の計画が始まったと言われております。一方昭和2年には初等部を設立し、講堂が完成し目白キャンパスの体制が整っております。また移転予定先南沢学園町（東久留米市学園町）の学園敷地に接する住宅地（7万坪）の分譲を開始し、昭和5年には初等部の校舎を南沢に建設、昭和9年には女子部12教室、食堂台所、体操館、講堂を建設し目白キャンパス（豊島区西池袋）から完全に南沢キャンパスへ移転しました。このため大正10年から14年にかけて建設された校舎（設計F・L・ライトと遠藤新）は学園や社会そして卒業生の明日のために活用されることを願って「明日館」と名付けられ今日に至っております。

学園の本拠地が南沢キャンパスへ移ったため十分な手入れができず、老朽化が目立ち始め1970年代には記録を残すための実測調査が建築学会によって行われました。1980年代になり土地の高騰もあり「明日館取り壊しか」の報道がされたのをきっかけに、卒業生や建築家による保存を求める運動が盛んになりました。1990年代学園は保存活用の検討を始め、1997年（平成9年）重要文化財の指定を受けました。半解体修理工事は平成11年の解体調査工事から始まり12年は組立工事、平成13年に完了しました。

この工事の設計監理は文化財建造物保存技術協会、施工は大成建設、事業費は約765百万円、（国50% 都24% 区0.6% 学園25%）

現在明日館は会議集会、結婚式披露宴等一般に開放されており、また生涯学習講座、自由学園、婦人友社の広報活動の場として活用されております。



東京・東久留米 自由学園女子部食堂棟 1934

建築面積 中央棟教室棟 (旧校舎)
 942m² 285 坪
 木造 2 階建一部 3 階
 講堂 403m² 122 坪 木造 2 階建
 延床面積 中央棟教室棟 (旧校舎)
 1,184m² 358 坪
 講堂 504m² 152 坪
 敷地面積 3,006m² 909 坪 (講堂敷地を除く)
 設 計 中央棟教室棟 F・L・ライト遠藤 新
 講堂 遠藤 新
 施 工 女良工務所 (京橋 女良正吉)
 竣 工 中央棟 大正 10 年 8 月
 西教室棟 大正 11 年 4 月
 東教室棟 大正 14 年 9 月
 講 堂 昭和 02 年 6 月
 (自由学園の校名は新約聖書、ヨハネによる福音書第 8 章にある「あなたたち真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」に由来します。)

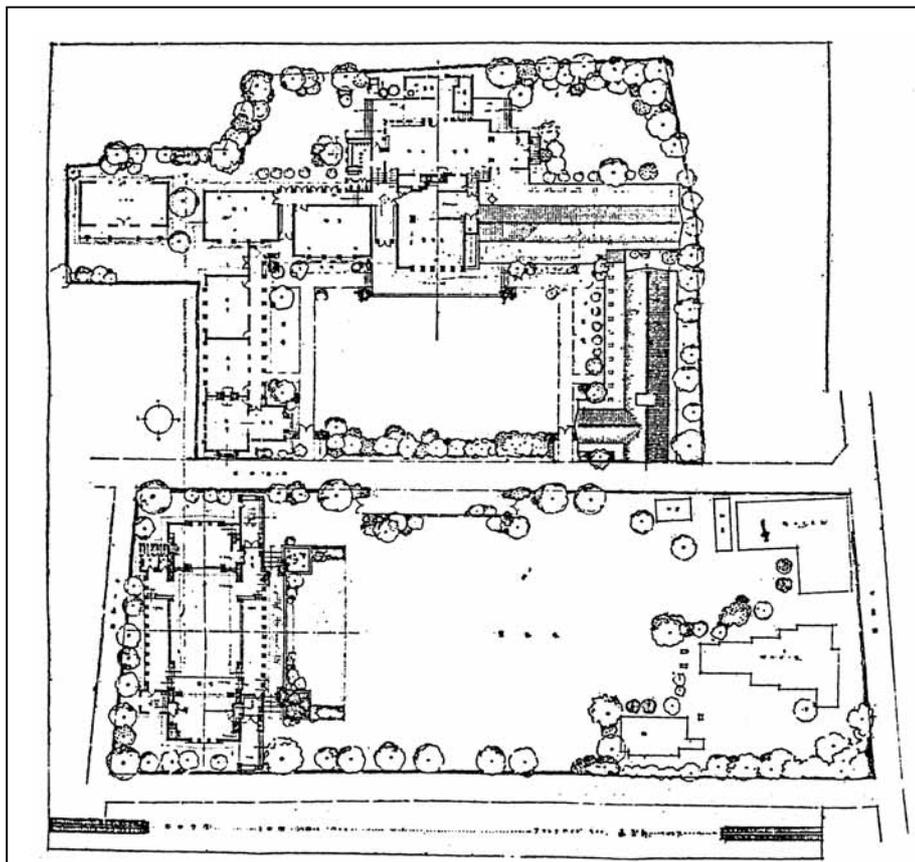
自由学園南沢キャンパス

目白キャンパスより西へ 10km 程の所に位置します (西武池袋線で約 20 分) 南沢キャンパス敷地約 10 万 m² (3 万坪)、幼児生活団 (幼稚園) から最高学部 (大学) までの生徒学生が生活しております。

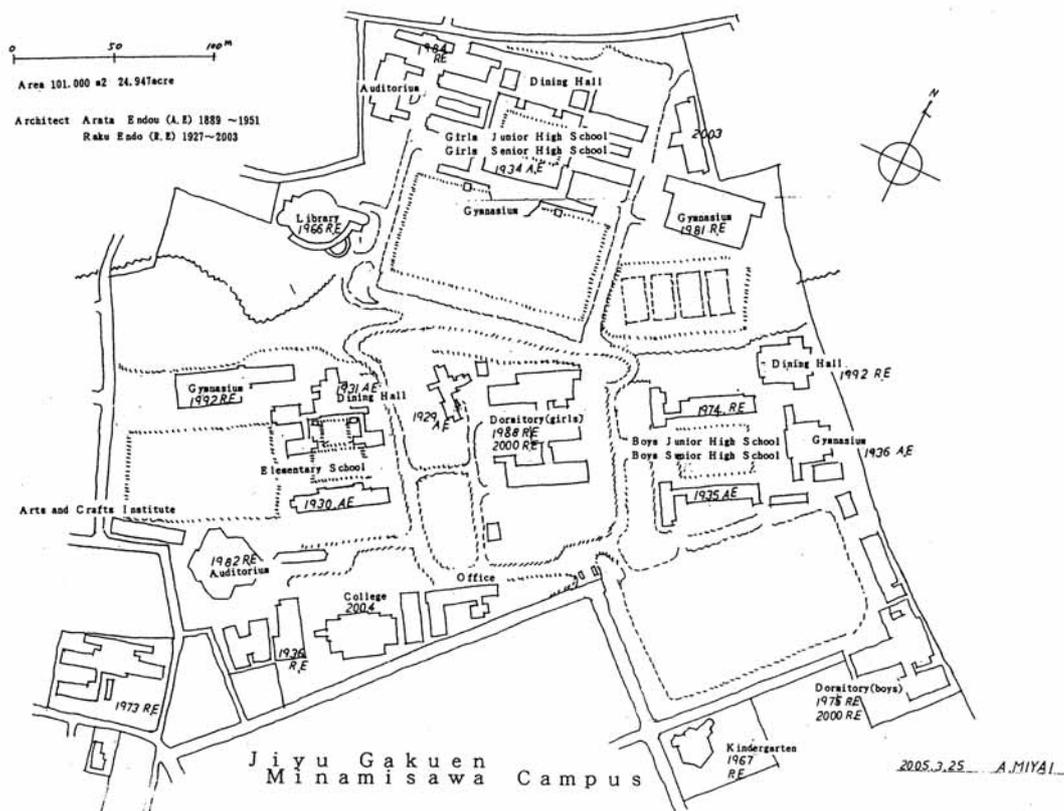
昭和 5、6 年に初等部校舎、9 年に女子部校舎、10、11 年に男子部校舎、24 年に最高学部校舎が遠藤新 (明治 22 年 ~ 昭和 26 年) によって設計されました。その後は遠藤新の二男遠藤楽 (1927 年 / 昭和 2 年 ~ 2003 年 / 平成 15 年) によって設計されてきました。

女子部食堂、女子部講堂、女子部体操館、初等部食堂、男子部体育館の 5 棟 (設計遠藤新) は東京都選定歴史的建造物に指定されております。

この地は 4,500 年程前の縄文時代中期の集落跡で 30 ~ 60cm の深さで多くの竪穴住居跡と土器片が出土する自由学園遺跡群でもあります。女子部の校舎がありますキャンパスの北側地域は南側より約 10m 程下がっており小川が流れおります。キャンパス



建築世界 昭和 2 年 7 月



女子部食堂

は武蔵野の面影を残す林に包まれ四季それぞれの趣があります。

遠藤 新(1889年/明治22年~1951年/昭和26年)

東京帝国大学を卒業した3年後の大正6年、帝国ホテルの支配人林愛作の紹介でホテル設計のため来日していたアメリカの建築家F・L・ライト(1867年/慶応3年~1959年/昭和34年)に会い、やがてホテルの図面作成のためライトとともにアメリカへ渡りました。大正8年にホテルは着工し、遠藤新はチーフアシスタントとして働きます。

遠藤は学生時代に富士見町教会で洗礼を受けております。この教会で面識のあった羽仁吉一(1880年/明治13年~1955年/昭和30年)・もと子(1873年/明治6年~1957年/昭和32年)夫妻より自由学園の創立を聞き、校舎の設計者として遠藤はライトを推薦したと言われております。やがて2ヶ月程の短期間に設計が行われ工事途中で入学式を迎えております。その後の自由学園の建築は遠藤が全て行い、「婦人之友」誌には多くの著述を残しております。

大正11年ライト帰国後、遠藤新建築創作所を設立。大正12年帝国ホテル(現在復元された食堂部分が明治村にある)は完成したが関東大震災に見舞われます。

兵庫県芦屋にある山邑邸(重要文化財、灘の桜正宗の醸造元山邑家の別荘)はライトの基本設計、遠藤と南信で実地設計が行われ大正13年竣工。同年東京都三宿、萩原邸(登録文化財)、14年東京都本郷、東大YMCA。西池袋、羽仁邸。神奈川県辻堂、近藤邸(登録文化財)。昭和2年東京都西池袋、自由学園講堂(重要文化

財) 神奈川県葉山、加地邸。3年東京都日本橋、梁瀬自動車本社ビル。5年兵庫県西宮、甲子園ホテル(現武庫川学院学舎)。7年長野県戸倉、笹屋ホテル(登録文化財)。9年東京都東久留米、自由学園女子部校舎(東京都選定歴史的建造物)。長野県軽井沢、吉尾信子別邸。旧満州新京、満州中央銀行総裁邸。10年旧満州新京、満州中央銀行倶楽部。13年栃木県真岡、真岡小講堂(登録文化財)。戦後は公立学校の建築計画に力を注ぎ、従来の封建的で画一化した学校建築を生徒中心の建築へと提唱実践しました。26年逝去、前年完成した東京都下落合、目白ヶ丘教会で葬儀が行われました。

遠藤新は幾つかのホテルを計画、設計しております。F・L・ライトのチーフアシスタントとして、帝国ホテルを1923年(大正12年)に完成させますがその後甲子園ホテル(1930年)、笹屋ホテル(1932年)、那須高原ホテル松川屋(1951年)等を設計し、いずれのホテルも和室に特徴があります。

甲子園ホテル

このホテルは帝国ホテルの元支配人林愛作(1873年~1951年)と遠藤新の良い関係の中から生まれたと思われます。「林さんに従えば、日本の宿屋のサービスは実に優れたもので世界の何処に行ったって、こんなにかゆい所に手の届くような世話をやってくれるところはありません。」「日本の現在の宿屋はサービスで優れて、設備で劣っているということとなる。そこでこの設備にこのサービスを加えて打って一丸としたホテルが出来ないものかというのが林さんの考えで出来るというのも林さんの意見で、そして出来上がったのが甲子園ホテルだという次第です。」「八畳の日本間と十畳の洋間と続いたもので(一部路)洋間を居間、日本間を寝室或いは食堂等に使う」「場所は阪神をつなぐ新国道に添う(一部略)砂白く松緑なる武庫川岸、舟を浮かべるによるしき唐池を庭にして遙かに海と山とを併せたる風光。」「日本人の風俗習慣に適合して家庭的な趣きの婦人に

も子供にも都合のよいホテルが出来上がりました。」と婦人之友誌(昭和5年6月号)に遠藤新は書いております。

大阪と神戸の間に位置するリゾートホテルとして利用されましたが、やがて戦争となり戦後は連合軍に接收されました。幸運なことにやがて武庫川学院に渡り荒れていた建物は丁寧に修復されオープンカレッジとして使用されてきました。現在は武庫川女子大学が本年4月に開学した建築学科の校舎として使われています。国の重要文化財に等しい価値のあるこの建物は、武庫川学院の文化財を大事にするという考えとそれを次の世代に生かすという考えから、この場所を教室として使い、学生にとってはより優れた空間の中で学べるという理想の教育環境が与えられました。またこの既存校舎(旧甲子園ホテル)の隣に新しい校舎を建設中で、如何に既存建物と調和させるかがテーマとして計画されております。

笹屋ホテル

信州戸倉上山田温泉を明治の中頃開発した酒造業(雲山)坂井家によって笹屋ホテルは開業しました。千曲川のほとりにあるこのホテルは志賀直哉、若山牧水、佐佐木信綱、有島生馬、井上靖と多くの文化人に愛され、名門ホテルとして現在に至っております。遠藤新が43歳の時の1932年(昭和7年)広間と現在「別荘」と呼ばれている和室の客室(国の登録文化財)が設計されました。フロントを通り池を見ながら、やがて別の世界が展開する準備をさせてくれる程よい長さの渡り廊下を歩き和室へ案内されます。ホテルなので複数の客室があることは当然ですが、部屋からは広縁を通して庭が見え他の客室の気配を感じさせない平面計画になっております。この客室の特徴は和室より20cm程床を下げた広縁です。この笹屋ホテルより2年前に設計した甲子園ホテルでも、同様の考えで和室を寝室・食堂と考え一段低い洋間を居間と考えると言っております。笹屋ホテルは甲子園ホテルの居間(広縁)を少し小振りに

して、ここに椅子と小さなテーブルを配しております。日本の多くのホテルに見られる和室と洋間（広縁）の原型です。

昭和の初めの時代、ヨーロッパのコピーが多くのホテルの主流であったことを考えると、遠藤新のホテル設計の考え方は特筆すべきことです。



甲子園ホテル(現武庫川女子大学)



笹屋ホテル外観 提供：笹屋ホテル